

【第 143 回対策本部会議】 10 月 5 日

健康福祉部長／直近 2 か月間を 1 週間ごとに感染者数の推移をみると、6 月下旬から増え、多いときには 1 万人を超えた。8 月 14 日の週がピークで 1 万 4,663 人。その後、減少傾向が続き、今週は 1,000 人台になった。ピーク時から毎週、前週の 7 割前後の感染者数で推移している。この減少傾向は、しばらく続くとみている。

本日の感染者数は 242 人、入院者数は 86 人、病床使用率は 14.9%、うち中等症者は 31 人、中等症者用病床使用率が 5.4%。重症者はいない。ホテル療養者が 24 人、ホテル使用率は 4.9%。

病床使用率は、8 月 12 日の 59.1%をピークに減少。9 月 22 日に 78 日ぶりに 10%台、ホテル使用率は、9 月 23 日に 257 日ぶりに 1 桁になった。ただ、病床使用率はここ数日、1 桁で横ばい。これは、夏場に感染者が増えた際、臨時で増床したものを 9 月末で戻したことも要因だと考えている。

陽性者数が減少しても、高齢者の入院率が高いことに変わりない。引き続き、高齢者への感染拡大防止に取り組みたい。これからはインフルエンザも流行する季節。引き続き、手洗い、マスクの着用などの基本的な感染対策防止の取り組みをお願いする。

佐賀型フォローアップシステムは、9 月 2 日から運用を開始。発生届の対象外陽性者の 9 割以上が、陽性者登録センターに登録した。医療機関の丁寧な説明のおかげだと感謝している。

ワクチン接種調整チームリーダー／9 月 22 日から県内でオミクロン株対応ワクチンの接種が始まった。

対象者は、12 歳以上の全ての県民。

- ・未接種・1 回接種済みの人は、従来株対応のワクチンを接種。
- ・2 回・3 回・4 回接種済みの人は、前回接種から 5 か月後に、BA.1 型または BA.4 /BA.5 型のオミクロン株対応ワクチンを接種。

オミクロン株対応ワクチンは、国が接種間隔を短縮する方向で検討中。10 月下旬までに結論が出る。BA.4 /BA.5 対応型ワクチンは薬事承認前だが、承認が下りれば各市町に配送される予定。具体的な接種開始の時期は、今後、市町から公表される。

冬に向かい、感染拡大が危惧される。県民の皆様には、引き続きワクチンの接種を検討してほしい。

坂本副知事／インフルエンザのワクチンとコロナのワクチンで、接種間隔などの決まりはあるのか。

医療統括監／基本的にはない。今後、ガイドラインが出てくる可能性はある。接種を受ける際、医師の指示に従ってほしい。

文化・観光局長／「佐賀支え愛宿泊キャンペーン」が10日で終了する。10月11日～12月20日まで、全国旅行支援「GO!!佐賀旅キャンペーン」が始まる。

割引率は40%。ただし、割引上限額があり、新幹線・飛行機等の交通付宿泊旅行商品は8,000円。宿泊のみの商品は5,000円、日帰り旅行商品は5,000円が上限額。

地域限定クーポンは、宿泊の場合3,000円、土曜日宿泊のみは1,000円。平日(月曜～金曜)日帰りは3,000円、土日祝日日帰りは1,000円。

店舗型またはオンラインの旅行代理店で予約し、利用できる。宿泊のみは、直接宿泊施設での予約も可能。

地域限定クーポンが利用できる店舗、事業所を募集している。事前に、事業者の登録が必要になる。観光施設、レンタカー、文化施設など幅広い業種の参加登録をお願いする。「GO!!佐賀旅キャンペーン」地域限定クーポン事務局では、土日、祝日も問い合わせを受付ける。このクーポンは、九州佐賀国際空港内の全店で利用できる。

坂本副知事／「GO!!佐賀旅キャンペーン」は、旅行代理店がJRやタクシーを使った旅行企画品を作れば、それを県内の人々が利用しても上限額が8,000円になるのか。

文化・観光部長／旅行代理店が、そのような企画品を作れば利用できる。

医療統括監／先ほどのワクチンに関し、追加で申し上げる。コロナとインフルエンザワクチンの同時接種は、審議会でも可能だとされている。その上で、迷う人は、個人接種の際に医者に相談してほしい。

坂本副知事／決められた接種間隔があるのではなく、医師の判断に委ねるといふことか。

医療統括監／技術的には可能だが、医者の説明を聞いて判断してほしい。

知事／先日、N95マスクをつけ、完全な防護服の着用を経験した。このマスクは大変息苦しく、医療従事者や施設の現場でコロナに対応する苦労の一端を垣間見た気がした。改めて感謝申し上げる。

アルファ株やデルタ株が流行した2021年12月までの2年間は、感染者数が5,000

人。今年の1月から流行したオミクロン株は、9か月間で15万3,000人が陽性になった。これは、県民の19.5%、つまり5人に1人が感染したことになる。そのうち、20歳代以下だけをみると32.8%、3人に1人が陽性経験者。一方、70歳代以上は8.3%、12人に1人。高齢者への対策ができ、人口当たりの死亡率を抑えることができたという数字が示している。

本県は、人口に占める子どもの数が全国3位と多く、20歳代以下の人口も多い。つまり、それだけコロナの陽性率が高くなる傾向が出やすい県だと言える。

感染者数は、8月17日の過去最高2,988人から大きく減少し、現在は病床使用率も14.9%と落ち着いている。

本県は、9月2日から医療機関の負担軽減のため全数把握の届出を見直した。同時に、佐賀型フォローアップシステムを導入。これは、発生届対象外の人も含め、きめ細かく支援するシステム。9月26日から全国でも全数届出の見直しを実施されるようになったが、以後もこのシステムを維持している。

10月末には、感染者数が2桁、病床使用率が1桁になると分析している。病床使用率が1桁になると、現在のレベル2の見直しを行う予定。状況の変化を捉え、的確に対策を講じたい。

これから、行楽や野外行事に適した時期になる。唐津くんち、バルーンフェスタ、伝承芸能祭や佐賀さいこうフェスも通常開催される。これまで培った感染対策を施し、ルールを守り、様々な行事を楽しんでほしい。

感染に関する数字が減っている中でも、医療現場をはじめ介護、福祉、保健所、教育現場、ワクチン現場などで尽力いただいている皆さん方に感謝申し上げます。また、県民の皆様のご取組にも感謝申し上げます。